

地域スポーツクラブのリーダー交代と後継者育成に関する研究

A study on a leader shift and succession planning of a community sports club

1K03B028-3 上杉 健太

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 宮内 孝知 先生

【緒言】

これまでのわが国では、欧州各国に比べ、学校部活動や企業クラブなどでスポーツ活動をする機会が多かった。しかし近年では、文部科学省が総合型地域スポーツクラブの全国展開を推進するなど、地域に根付いたスポーツクラブの育成が重要視されてきている。わが国における地域スポーツクラブは、小規模・単一種目型のものがほとんどであり、問題も多いといえる。特に、このようなクラブのライフサイクルは一世代のものが多いとされており、次々と設立されては解散しているのが現状のようだ。原因は様々であるが、筆者は、リーダーのリタイアが頻繁に起こること、その時に後継者が不在であることを問題点とし、地域スポーツクラブにおけるリーダー交代に注目することにした。

リーダーの交代は地域スポーツクラブに限らず、全ての組織において重要な問題である。これは、日産自動車の変革が「ゴーン改革」などと個人名をつけて呼ばれることから分かる。さらに、リーダーの及ぼす影響は小規模の組織であるほど大きいと考えられている。つまり、地域スポーツクラブのような小規模な組織におけるリーダーの交代は、それ以降のクラブの将来を大きく左右するイベントであるといえる。

そこで本研究では、地域スポーツクラブの運営方法や、リーダーがとっているリーダーシップスタイルを調査・分析し、リーダーの交代と後継者育成についての提言を試みることを目的とした。

【研究方法】

本研究では、リーダーシップやボランティア組織などに関する文献研究と、地域スポーツクラブのリーダーへの面接法を用いた調査から、問題の分析と提言を試みた。文献研究では特にボランティア組織や非営利組織の運営に関する文献の検討を行なった。面接法による調査では、調査対象クラブ選別の条件を、①極端な年齢制限を設けず、広く会員募集を行なっているクラブ、②ホームページを持っており、公共性を強く意識したクラブと設定し、これらの条件を満たしているクラブから、4つのクラブのリーダーに面接法による調査を行った。

【結果及び考察】

調査の結果、全てのクラブが現在のリーダーが立ち上げ

たもので、代替わりを果たした経験があるクラブはなかった。また立ち上げに際しては、他のクラブやアルバイト先などの仲間が集まって立ち上げていた。

運営に関しては、リーダーが一人で全ての仕事を抱えて運営しているクラブがほとんどであった。役割分担がされているクラブもあったが、メンバーが自主的に運営できる段階ではなく、リーダーにかかる負担はやはり大きい。また、リーダーは人間関係においてもメンバーに気を使うことが多いようであった。特に新しいメンバーが入る時などは、メンバーがクラブに馴染めるように努めていた。また、ビジョンを持ち、クラブの方向性を示すことも安定した運営のために不可欠であることが分かった。

また、機能的な役割分担がされているクラブはなかったが、自主的にクラブ運営に貢献しようとするメンバーがいるクラブは確認された。このようなメンバーは在籍年数が長い傾向にあり、メンバーは年数を経てだんだん成熟してくると考えることができる。

後継者はこのような自主的なメンバーで、クラブに愛着のある者になると考えるに至った。つまり後継者の育成において最も重要なことはメンバーに自主性や愛着を持たせることである。そのプロセスに関しては2つの提言を試みた。一つはリーダーが一人で運営をし、メンバーを活動に専念させ、さらに人間関係の構築を促し、クラブへの愛着を持たせることを最優先させる方法である。もう一つは、早い段階で完全に役割分担をし、運営をすることでメンバーに自主性を持たせる方法である。

さらに、一代目リーダーが長期的に役を務めるために、リーダーの不満を緩和させることを主な目的とした集会を開くことが求められる。

【今後の課題】

地域スポーツクラブのリーダーには、クラブを継続させる意思がない場合もあることが確認された。もしこのようなリーダーが大多数であるならば、本研究はあまり意味のないものになってしまう。よって、全国の地域スポーツクラブのリーダーに、その継続意思について調査する必要がある。

また、メンバーがクラブに愛着を持ち、自主的に運営するプロセスに関しては、より心理学的な面からも研究する必要があると感じられた。